

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念は毎朝、職員全員で唱和している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	運営推進会議や便りなど機会あるごとに、理念を記載するようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域行事にできる限り参加し、理解と協力を得て地域交流をより深める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の交友関係や趣味を通じて社会資源を活用し、事業所と地域のつながりをもち、理解と協力得られ役立つよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げる為の改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には民生委員や地区協議会の方にも参加していただき、利用者の入退居状況や日々の暮らし、事故報告、入院の状況などを報告し、意見をいただき改善に努めている。	○	他施設の人にも参加してもらい、意見の交換や他施設の経験を学びサービスの向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からない事は相談し、できるだけ市担当者と連携を深くし、協力関係を強めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットや文章を閲覧できるようにしてあるが、職員全員が権利擁護に関する制度を十分理解できているとはいえない。	○	外部研修に参加し、勉強した事を報告する機会を持ち、諸制度についての知識向上を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症に関する対応マニュアルを配布し、周知徹底を図り勉強会の実施や研修会に参加し、虐待に対する意識は十分に持ち、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前相談や契約時には重度化への対応や、事業所の限界・リスクについて十分説明し、疑義やトラブルが生じないように心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見などその都度家族に伝え、必要なときはすぐ家族と連絡を取っている。また、面会に来られたときに話し合いの場を設けている。その際の利用者家族の不安や意見はミーティングや職員会議で伝え話し合い、支援につなげている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時には、日頃の状態を報告、相談している。また、写真等を掲示し、暮らしぶりについても報告している。金銭管理については、小遣い帳に記入し、ご家族に確認していただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情等に対する常設窓口としての相談担当者に管理者と計画作成担当者を配し、苦情等があった場合は聞き取り調査を行い、できるだけ迅速な必要措置を講じるようにしている。また、公的相談窓口の紹介を文書にて行い、意見箱を設置している。意見相談に関し改善策について話し合っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人や、ミーティングの中で出された意見は直ぐに対応できるものは実施し、検討を要するものは職員全員で相談し、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族が付き添えなくなった病院受診、利用者の急な体調変化、情緒不安や混乱時には、状態が安定するまで勤務時間帯をずらしたり、パートの時間帯を変更するなどの対応をしている。今後も必要に応じて対応していく。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を築くために、壁に職員の名前や写真を張り出したり、馴染みの職員が対応することを心がけている。離職がやむを得ない場合は時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○ 利用者の混乱が無いよう離職など最小限に留め、働きやすい環境を作る

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を計画的、継続的に受講できるよう年間計画を立てている。研修内容は研修報告を出してもらい、全員で閲覧できるようにし、ケア向上に活かしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することや地域の同業者と運営推進会議や行事(運動会・ボランティアの観賞)を通じ、交流する機会を持ち、他施設での取り組みを知り、互いのサービス向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者の介護に支障がない範囲で、利用者から離れて休憩が取れるように室を確保し、ストレスが溜まらないような配慮をしている。親睦を兼ねた食事会や旅行を実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、常に現場で職員とともに働き、職員の状態や勤務状況を把握しながら、各自の個性や資格に応じた環境を整備するように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	基本的に家族だけでなく、利用者本人にも来ていただき、体験入所などで事業所をよく知ってもらってから利用開始に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談時には利用の仕方や、対象者、手続き、建物の構造、一日の生活の流れ等丁寧に説明していく中で、家族の要望や利用者の状態をよく聞き、気軽に相談できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提として、説明するのではなく、これまでの介護の様子や相談に至った経緯、何を一番必要としているのか、今後の家庭への復帰の事も含めて、対応できるように努めている。	○	他施設の紹介、説明等現在の利用に適していると思われる相談に応じている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは見学していただき、雰囲気を感じ取ってもらうようにし、必要であればお試し入居をしていただき、入居に関してもご家族に充分相談し話を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や特技など得意分野の力を引き出すことに留意し、年賀状の文書を書いてもらったり、庭の手入れ、作物の作り方等日常生活で知らないことを教えてもらえるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりのできる事を引き出し、伸ばすことができるよう支援をしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者の状況について家族に伝え、相談し、話をしていくよう努めています。また家族の方に行事に参加をしていただく中で、同じ時間を共有し助け合いながら共に利用者本人を支えていけるよう日々模索している。	○	もっと多くの家族の方に協力を得ながら行事に参加をしていただき、家族の方と共に支えあっていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族の状況に応じて外出・外泊・面会・電話等で少しでも利用者との関係が変わらずもてるよう努めている。	○	職員が間に入り、疎遠になることなく今まで以上の関係が築けるように努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるかぎり馴染みの美容院の利用やお墓参り・行きなれた店に出かけられ、利用者一人ひとりの要望に沿えるよう家族と共に支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の相性や性格などに配慮し、自発的な言動を尊重しながら見守るとともに、お互いを心配し思いやる気持ちや行動を大切にし支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先にお見舞いに行ったり家族に様子をお伺いすることがある。退所される際には、遊びに来たり、いつでも相談を受ける旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中から希望、意向を分析し、日々の表情、行動からも意思等を汲み取り把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護保険利用者に対して、担当ケアマネージャーや各種サービス事業者から情報を収集するとともに、利用者本人、家族から聞き取りをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中だけでなく夜間を通して、利用者一人ひとりの状況把握ができるよう2ユニット間で申し送りを実施している。また、申し送り簿も作成し、職員全員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の思いや意見を聴き反映させるようにしており、アセスメントを含め職員間で意見交換等を行い、介護計画を作成している。	○	センター方式のアセスメントを活用できるように取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族や利用者の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には再度検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアファイルや実践記録表作成により、日々の経過観察ができるようにしている。気になる行動や課題があるときは必ず記録し、申し送りで情報を共有し、介護計画に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や送迎等必要な支援は家族と連携をとりながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や地区協議会・防災訓練を通じて苑での活動内容を知ってもらい協力を得られるようにしている。ボランティアの訪問を受けるなどによる支援で交流が広がっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括センターや介護サービス事業者からの諸制度の説明や介護用品・福祉用具補助具の紹介を受け、利用できるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして参画してもらい、助言、協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する医療機関の選択は家族・本人の意向を尊重し決められている。かかりつけ医のいない場合は苑での協力医療機関を紹介している。また必要に応じ皮膚科、精神科、眼科、整形外科、リハビリへの受診も支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師に、相談や指導が受けられるようにしているとともに常に連携を保っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診・通院をしていただいている協力医療機関の看護師と常に連絡をとり、問題点やわからない点は相談、助言をいただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	疾病の経過や状態に配慮し、健康状態の異変を早期に発見し、できるだけ入院しなくて済むように、専門医への紹介状をもらったりし対応している。入院時には状態の変化等ないか面会に行ったりし、会話等によって安心して過ごしていただけるよう対応をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に重度化した場合の受け入れが難しいことは、契約時に説明、納得してもらったうえで入居していただいている。また、状態変化のあるときは、最終的な利用者・家族の納得の上で、終末期も本人と家族の意向に添えるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	単独施設であり医療的に限界がある事を入所時に説明し、納得いただいておりますが、できる限り病院と家族と連携を密にとり、医師や家族の協力の下、終末期に向けて取り組んでいる。	○	利用者及び家族の意向に添えるよう、職員全員で対応できるよう取り組んでいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居される際には、利用者の状態、これまでの生活や課題、支援の内容、介護の留意点などの情報を必要に応じ提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生きてきた歴史を大切にし、ミーティングで指導や注意を行い尊厳ある対応をしている。本人・家族に対するプライバシーや個人情報を話さないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望がかなうよう、また本人の意思決定がされるよう時間をかけ納得できるまで訴えを聞き支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶、入浴などの日課の流れは決まっていますが、特に日課を強要することなく利用者の状態や希望される時間に柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容時には、希望を聞いたり気候に応じた服を選んでもらうように働きかけたり、行き慣れた店での衣類の購入や本人の希望の美容院への送迎も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	協力医療機関の栄養士による献立を参考にしながら食事作りをしている。利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりをしている。また、干し柿作りや餅つきも利用者とともにやっている。野菜切り、料理の分配、食器洗い拭きなどの片付けもできる力に応じて一緒に行っている。	○ 季節感を味わえる行事食を多く取り入れたい。誕生日には好みを聞きお祝い食をしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の今までの嗜好品を楽しめるように、利用者、家族と話し合いながら支援している。家族からの好きなおやつ持込み、希望に応じて一緒におやつのお買い出しにも出かけている。パン屋の移動販売が来た時には声かけし、購入時には見守っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムをつかみタイミングを図り、トイレ誘導をすることで排泄の失敗を減らしオムツの使用を減らせるようにしている。またオムツやパッドの形態や使い方の見直しも随時している。排泄後にナースコールを押してもらい落ち着いて排泄できるよう取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとりひとりの要望や希望、体調に応じて入浴していただき、入浴を拒む方は声かけや対応の工夫をし、チームプレー等により個々に合わせた入浴支援をしている。毎回希望を聞き、本人の思う時間に入浴を準備している。	○	季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯等を行い、楽しみにしていただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に日中の活動を促し、生活リズムが整うように支援している。体調に合わせて日中にも休息できるようにしている。不眠時には話し相手をしたり食べ物、飲み物などを提供し、落ち着いて眠れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から経験や得意分野を活かして能力を発揮できる場所を支援している。日常生活では洗濯物をたたんでいただいたり定期的にお買い物や外出等の機会を作り、気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所での預かりを勧めているが利用者、家族から希望があるときは双方納得の上で所持していただいている。買い物時には利用者へ預かった現金を渡し支払いを見守り、買い物ができる喜びが感じてもらえるよう支援し、小遣い帳をつけ家族に報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせて、散歩、買い物、ドライブ、外食等にでかけている。希望があれば自宅に一時帰宅されたりもしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた、花見やひな祭りなどの見学などとともに個別希望の秋祭りの夜店、クリスマスのイルミネーション見学、墓参りや法事など家族の協力を得ながらできる限り利用者本人の希望に添えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	地域や親戚知人との関係を断ち切らないためにも、希望のある方は電話等で連絡を取れるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人がいつでも立ち寄りやすいよう、玄関前近くの駐車場は空けており、家族に昼夜を通して面会できるようにし、面会時にはお茶等を出し、ゆっくり和やかに過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束は行わない方針であるが、精神的に状態に問題があり、利用者本人や他の入居者の生命にかかわる行動障害に対しては家族と十分話し合っ得る場合には、同意書をとり行うようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの周りは田畑が多く暗い上、100メートルくらい離れた所に幹線道路があり危険である為、職員数が少ない夜間・早朝は家族の了承を得て施錠している。日中は玄関にチャイムを取り付けて人の出入りがわかるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングに集まる時間以外に利用者の安全のため、所在確認を行っている。居室で過ごされる方には、過度にならないような声かけや定期的な見回りによる安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律に無くすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤・薬品等の危険物品の保管は夜間は施錠している。利用者個人所有のはさみ・針・髭剃り用の剃刀所持などはその方の状態に合わせて検討し、一律に無くすのではなくその方の状態に合わせてもっていただいている。	○	一定期間を置き、見直し確認する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	嚥下が不安定な方には常時見守りを行うようにしている。無断外出がないよう、玄関チャイムが鳴ればその都度確認し、職員付き添いで出かけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事対応マニュアルは作成し、定期的な訓練や研修を行っている。	○	誤嚥時の対応の訓練や人工呼吸等の救命訓練に取り組んでいきたい。急変時の吸引器の置き場所等、全ての職員が把握しておく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、消防署の協力を得て避難経路の確認、消火器の使い方やビデオ鑑賞等で火災の危険性を理解し、勉強する機会を設け定期的に訓練を行っている。消防署、警察署に働きかけ理解を得ている。また、災害時の緊急連絡網を作っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測される事故や病状の悪化・対人関係について、常に家族に報告や相談をしている。できる限り本人の意向を尊重し自立した生活が送れるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕の申し送りで利用者の体調の変化を共有し、小さな異変でも協力医療機関に相談できる関係ができており本人の希望で、いつでも診察・往診が受けられるようになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬の説明書や通院・往診も職員全員で関わられるようにし、薬剤名に慣れるような取り組みをし、新しい薬等が追加になった場合は申し送りなどで説明している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い記録し、排便パターンをつかみ運動や繊維質の多い食物、乳製品を摂取し、腹部マッサージ等をする事で、できるだけ自然に排泄を行えるようにしている。	○	毎朝、ケアビクス体操を取り入れ、職員と一緒に運動を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの状態に応じた声かけや介助で、歯磨き、義歯の洗浄を行っている。必要な方は夕食後、義歯を預かり酵素液につけるなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回の食事が少ない方は補食も行い、毎回の食事に汁物を付け、食事摂取量を毎回記録し把握している。お茶の時間、風呂上がり、夜間巡回時なども水分補給をし、一日の水分摂取量を確保できるように努めている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し常に閲覧できる場所に置いてある。インフルエンザの予防接種を行い、保健所の勉強会に参加し、職員間で情報の共有を行い、手洗いや台所用品の消毒をするようにしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒対策として、毎日まな板、ゴミ受け、布巾、手拭をハイターに浸し、また定期的に口腔ケア用具の消毒も行っている。食材は、なるべく買い置きはせず鮮度の落ちやすい食品はその都度買出しに行っている。	○ 市場での買い出し等、季節の食材を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を出た直ぐは階段であるが横にスロープがあり、自動で明かりがつくようにしている。玄関の内と外に鉢植えの花と生花を絶やさないように置き、明るい雰囲気を作っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室は南向きの窓が大きく取られており、外が見え季節を感じる事ができる。ホールの横のトイレは不快なおい等がないように、まめに掃除をしている。ホールの壁には季節感を感じられる壁飾りをしている。	○ レクリエーションで、ちぎり絵やカレンダー制作等を行い、手作りのディスプレイをしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ・テーブルとイス・畳みコーナーがあり、お気に入りの場所で常に座られている。畳みコーナーでは常に2、3人が和やかに話している。	○ 食卓の席は決まっており、座席は対人関係に考慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスとクローゼットは備え付けの物を使用されているが、小さい机、ベッド、椅子、鏡台を置いたり家族の写真等の小物も飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいがする時は、掃除、洗濯、窓を開け布団干しをし、湿度の高い時は換気扇を使い、乾燥時には加湿をしている。夜間や起きる前には、冷暖房の温度調節などこまめにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等に分かりやすいように表示している。トイレ、廊下に手すりをつけ自分で安全に移乗・移動ができるようになっている。	○	お風呂の脱衣室にも立ち上がりバーを取り付け、安全に服の着脱ができるようにしたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活環境が変わり、時に不安になる方もいるが、混乱を放置せず、その都度、生活に馴染めるように配慮している。個別にトイレや洗面、入浴の仕方など慣れてもらうまで根気強く働きかけ、見守りや、少しの介助でできる限り自立した生活が送れるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りには鉢植えを置いたり、建物の外回りには家庭菜園を整備している。またベランダには洗濯物を干すスペースを作って植物の好きな方にはベランダに鉢植えで花等を育てられるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所者の健康に気を配り、日々の暮らしの中で年間の四季折々の行事を取り入れ、食べ物、草花、飾りつけ、外出などにより季節感をもっと感じていただきたい。そして、入所者の笑顔をたくさん見られ職員との生活が笑いのある楽しいものであるよう努力していきたい。